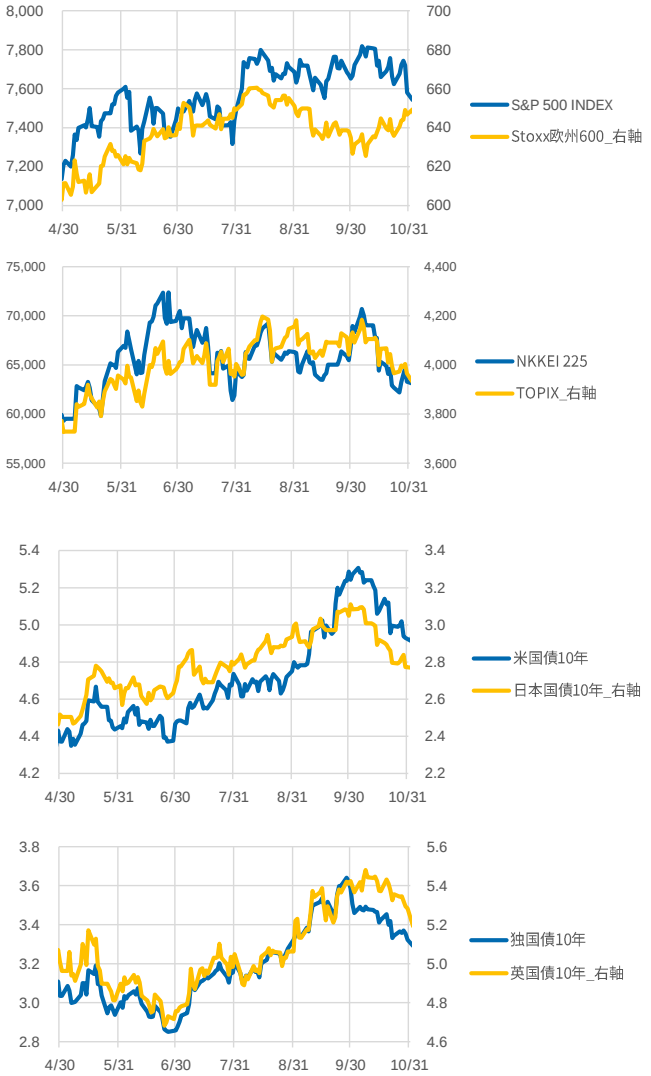
CCI Asset Partners

2026年10月の金融市場動向・今後の注目点

2026/11/10

株式	
米国	**AI投資の資金調達・投資回収懸念を背景に下落** S&P500は月間▲0.9%下落。上旬は高値圏で推移したが、中旬はCPI上振れやAIクラウド企業の信用不安による資金調達懸念からテック株主導で下落。下旬はアンソロピックのIPO申請でAI需要が意識され一時反発したが、大型テック決算のFCFや業績見通しの悪化による投資回収懸念で再び売られた。ハイテク株比率の高いNASDAQは月間▲5.3%下落した。
日本	**米AI・半導体関連株安を背景に大幅下落** 日経平均株価は月間▲5.2%下落。上旬はAI・半導体関連株主導で7万円台に回復したが、中旬にかけて米AIクラウド企業の信用不安や米追加利上げ観測を背景に急落。その後も米大型テック決算でFCF悪化や業績見通しの市場予想未達が意識され、上値の重い展開となった。半導体関連株の影響が相対的に小さいTOPIXは▲3.5%の下落幅だった。
欧州	**堅調な企業決算を支えに上昇** STOXX欧州600は月間+1.9%上昇。フランスの財政懸念を背景に銀行株は月を通じて軟調に推移した一方、中旬以降は好決算銘柄が買われ、指数は底堅く推移した。セクター別ではヘルスケアなどディフェンシブ株が上昇し、米日株が下落するなか相対的に堅調となった。
注目点	米中間選挙で民主党が上下両院の多数派を獲得したことを受け、データセンター建設規制や半導体輸出規制などAI関連政策の変化に注目。企業決算を通じて、AI需要の持続性や巨額設備投資の収益性・投資回収に加え、資金調達環境の変化にも留意。

債券	
米国	**AIの投資回収懸念を受けた安全資産需要により金利低下** 米10年金利はGDP確定値やISM指数が経済の底堅さを示し、月初に一時5.3%に到達。中旬にAIクラウド企業の信用不安からAI投資回収懸念が高まるとテック株が急落、安全資産需要が強まり国債買いが進んだ。下旬も大型テック企業決算を経て懸念は更に拡大。米10年金利は月末に5%を下回り、月間30bp以上と下落の大きい月となった。
日本	**入札が示した需要の強さに株安による安全資産需要が加わり金利低下** 円債10年金利は防衛費増額による財政懸念や米金利高につられて、月初は3.1%前後で高止まり。一方で10年・30年入札によって強い債券需要が示されると金利低下に転じた。中旬以降は米国起点のAI投資回収懸念による株売り債券買いの動きが波及し更に長期金利は低下、月末には10年金利は約3か月ぶりに2.8%を下回った。
欧州	**フランスの財政懸念が強まり、仏金利は上昇の一方で独金利は低下** 1日に発表された仏翌年度予算案を受けて財政懸念が強まると仏10年国債利回りは上昇する一方、独10年国債利回りは低下。その後も予算審議の難航や大規模デモを背景に仏10年金利は一時5%を上回り、月末も米10年金利を上回る水準で推移した。仏財政不安を背景とした独国債への資金流入もあり、独10年金利は月を通じて低下基調で推移した。
注目点	米中間選挙では両院で民主党が過半数を獲得。今後のトランプ政権の中東外交や国内政治の動向に注目。 日本では消費税減税・防衛費増額を巡る財源議論、フランスでは来年度予算案の審議動向も要確認。



〔出所〕bloomberg, CCI アセットパートナーズ

■当資料は、情報提供を目的として、CCIアセットパートナーズが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

© The CCI Asset Partners, inc.